ハーバード大学「H. B. ニコルソン・メソアメリカ研究優秀賞」受賞記念講演

ロマンに生きてもいいじゃないか

メキシコ、ピラミッドの発掘と人類学の魅力

H. B. ニコルソン・メソアメリカ研究優秀賞

中米の先住民文明研究の分野で数年に一人だけ選ばれる、大変名誉ある賞です。今まで世界的権威であるアメリカ・メキシコの研究者4名が受賞してきたなか、アジアの研究者初の受賞という快挙です。杉山特任教授が1980年代からメキシコ・テオティワカン遺跡で実施してきた3大ピラミッド調査の成果、近年の国際プロジェクトが認められ、メキシコ古代史解明への長年の貢献度が高く評価されました。

日時　2016年7月20日(水)
12:10 ～ 13:20

場所　愛知県立大学
長久手キャンパス
K棟(学術文化交流センター)

問合せ先　愛知県立大学　学務課
TEL:0561-76-8824

入場無料、一般公開
申込み不要

愛知県立大学多文化共生研究所　主催
地域連携センター　共催

講師紹介

杉山 三郎
愛知県立大学
特任教授

1980年よりメキシコ各地の古代遺跡で調査。1988年からメキシコ、テオティワカン「羽毛の蛇神殿」、「月のピラミッド」、「太陽のピラミッド」、「石柱の広場」などの総合調査を行う。2005年からアステカ大神殿、チョルーラの巨大ピラミッドも共同研究、古代モニュメントの比較研究を行う。近年は人類学、認知科学から文明論を展開。

「H.B.ニコルソン・メソアメリカ研究優秀賞」受賞記念講演会
ロマンに生きてもいいじゃないか
メキシコ、ピラミッドの発掘と人類学の魅力

多文化共生研究所長
杉山三郎

考古学者にとってメキシコは歴史的に、また文化的に非常に魅力的な国である。長く複雑な文明形成史と、50 ほどの民族が織りなす多彩な伝統文化がある。旧大陸の古代文明に匹敵する高度の文明を独自の力で作りあげ、その後スペインによる征服と植民地支配を経験しながらも、先住民文化と西欧文明が融合・変容したラテンアメリカ社会を形成し続けているからである。当時、そんな人類史に特異な魅力を知らずにメキシコへ渡った私は、ラッキーというか、渡墨後は脇目を振る余裕もなく、ただ毎日起きる新しいことに向き合い、それを消化しようと精一杯だった。メソアメリカ考古学も、またメキシコ歴史学・人類学も、まず現場で体験し、後に大学に入り直して学ぶといった半生であった。古代への夢を追ってメキシコに来たことを、ロマンに生きてもいいじゃないか、などと言えるのは結果論であって、研究者の端くれとしてまともに飯が食えるようになったのは 40 代後半からだろう。それでも、一つの夢、理想を求めて生きることは、それなりの満足感を与えるものだと若い人に伝えていいと思う。ヒトもそうだが、実は文明も脳が描くビジョン（仮想モデル）により社会進化してきたとも言えるからである。自然界に散在していた狩猟採集民が、次第に定住化し、宗教センター、そして都市を築くプロセスでも、古代人が脳に描いた理想モデル、世界観を具現化しようとした証が見つかることが多い。つまり私達のヒト社会でも集団の仮想モデルが先行し、現実がそれを追従し社会進化させた、動物界でも稀な生物種だったともいえる。

ともあれ、ロマンのお陰で苦労した２０代、３０代だったが、その後は順調に研究も成果を修め、ますますメキシコ考古学・人類学にはまっていった人生だった。メキシコの世界遺産の代表ともいえるテオティワカンで「羽毛の蛇神殿」、「月のピラミッド」、そして「太陽のピラミッド」と三大モニュメントの発掘調査を行い、古代人の精神世界と社会について研究する貴重な機会を頂いた。ピラミッドは聖なる山を象徴し、天上界、地下界への入り口とも考えられていたことから、希少な象徴品や多数の生贄体、また王墓と思われる痕跡をその内部で発見した。古代社会に特有な宗教的世界観、天文学・暦法や数学などの知識、儀礼、階層社会、古代国家の政治、戦争の意義など、実に多くの文化要素について研究させてもらっている。もはや個人のロマンをはるかに越えて、現代社会に通じる人類共通の課題であって、未来のヒト社会のビジョン形成について貢献できる作業とも言える。身が引き締まる思いである。最後に、我々の仕事が評価されたのも、同様なロマンをもった研究者、学生、地元参加者のチームワークの結晶であると申し添えたい。今回授かったH.B.　ニコルソン・メソアメリカ研究優秀賞も、皆様の献身的な努力のお陰であり、皆で共有すべき賞である。

2016 年 10 月 21-22 日に、ハーバード大学ピーボディ―博物館にて、H.B.　ニコルソン・メソアメリカ研究優秀賞のメダル授与式、ならびに受賞を記念した国際シンポジウムが同大宗教学部で行われた。